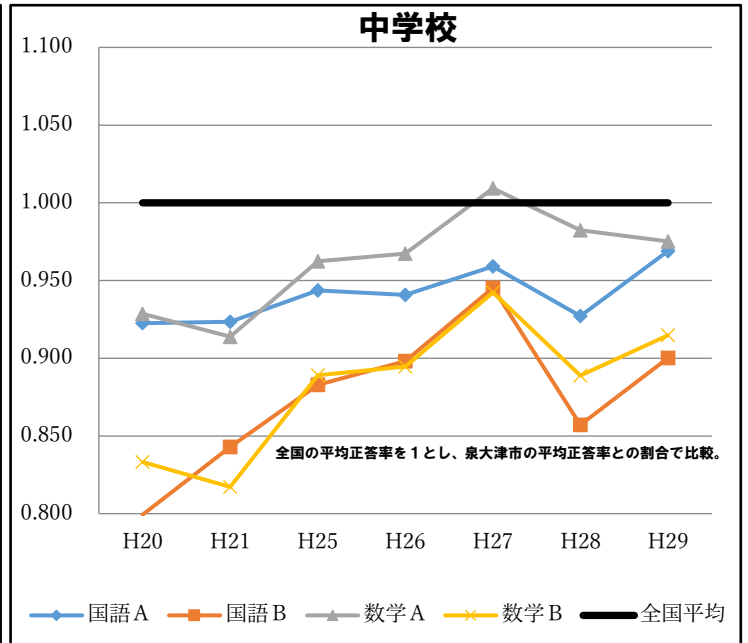
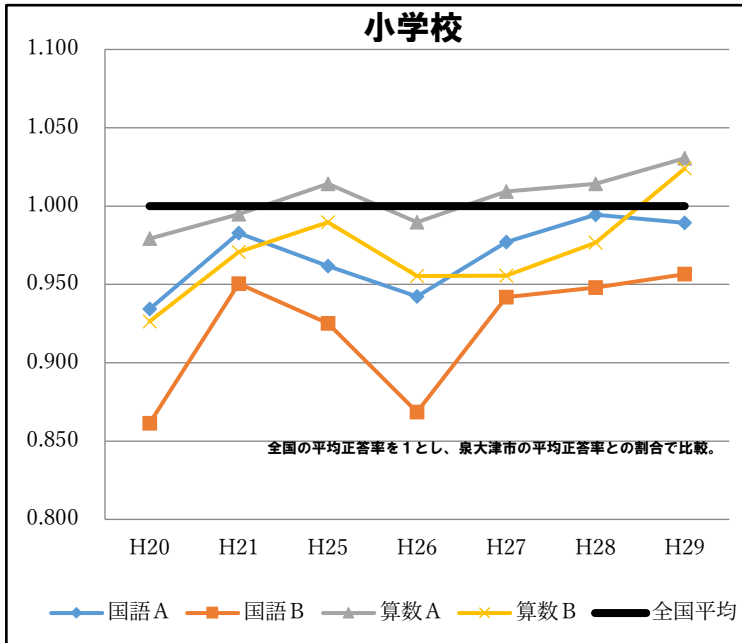


正答率比較

小学校は、算数A区分（主として「知識」）、算数B区分（主として「活用」）において、昨年度より改善が見られ、特に算数Bは全国平均を超えました。国語B区分は、改善は見られますが依然全国平均に達していません。中学校は、国語A区分・国語B区分・数学B区分において正答率は改善しましたが、すべての区分において課題が見られます。



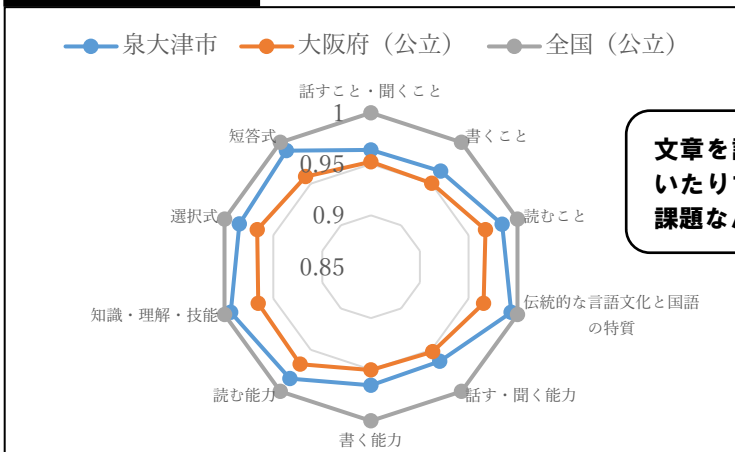
領域・観点・問題形式別

小学校は、国語に関しては「読むこと」課題が見られます。また「記述式」の問題形式にも課題があり、日常的な「読む」「書く」といった学習活動の改善がさらに求められます。算数は、全国平均を上回っていますが、「量と測定」領域に課題が見られます。

中学校は、国語に関しては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てに課題が見られます。数学は、「数学的な見方や考え方」の観点と「記述式」の問題形式に特に課題が見られます。

国語A区分

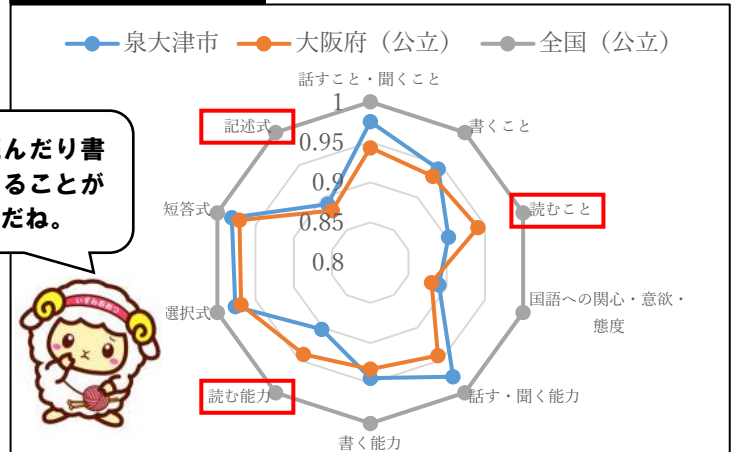
小学校



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

国語B区分

小学校



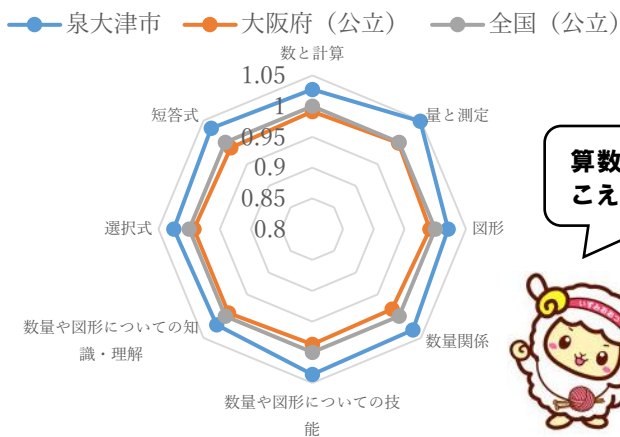
全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

文章を読んだり書いたりすることが課題なんだね。



### 算数A区分

### 小学校



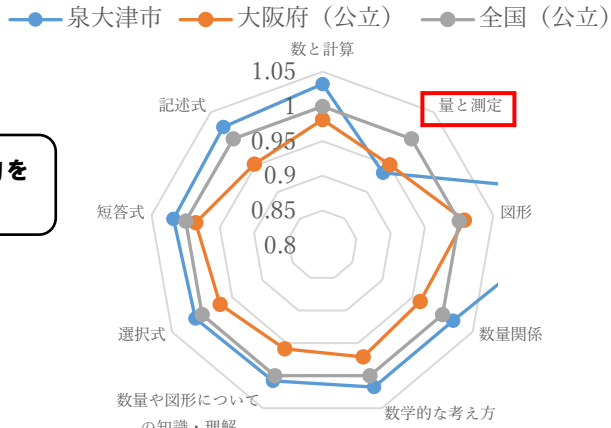
算数は全国平均をこえているね。



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

### 算数B区分

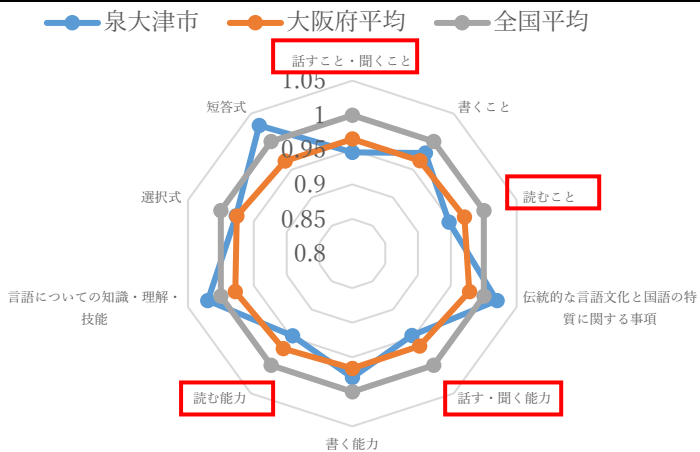
### 小学校



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

### 国語A区分

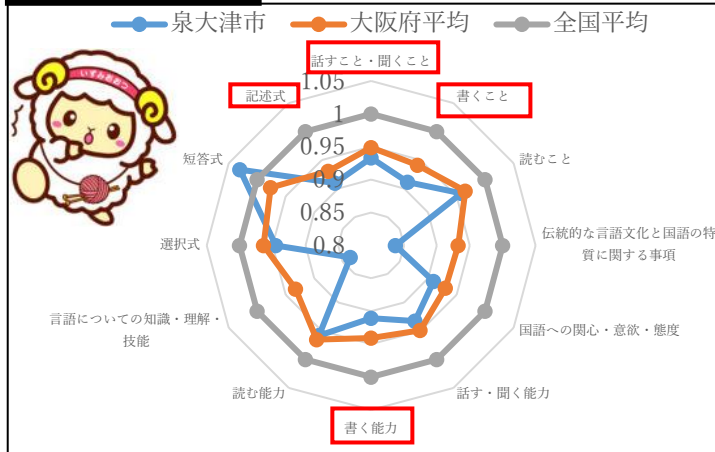
### 中学校



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

### 国語B区分

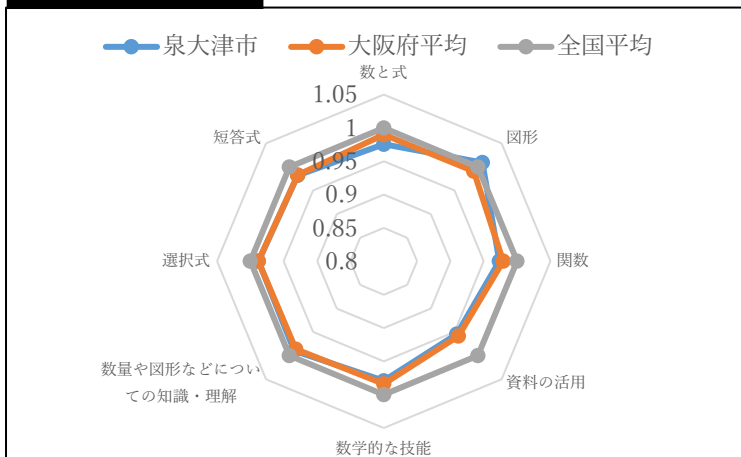
### 中学校



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

### 数学A区分

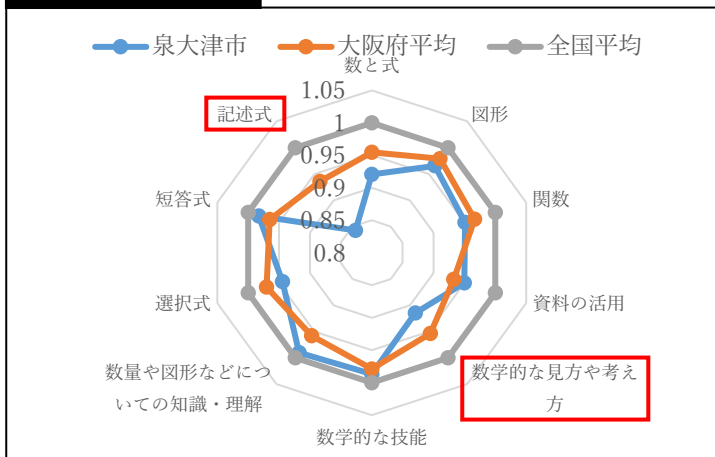
### 中学校



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

### 数学B区分

### 中学校



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。



ふだんの授業の中で、書いたり伝えたりする機会を増やしていかないといけないね。

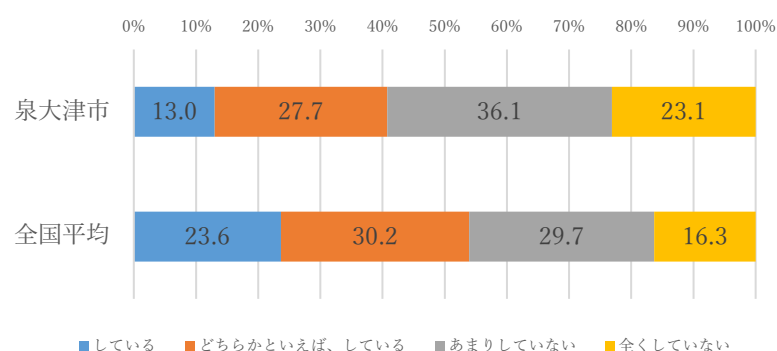
## 学習状況調査

平成29年度の質問紙調査の結果の中で、学力調査の平均正答率と相関関係が見られる項目について、抜粋しています。小学校においては、児童の家庭での授業の復習時間と、平日1日あたりの読書量を学力調査の正答率と照らし合わせて集計しています。中学校においては、生徒の家庭での授業の復習時間と、平日1日あたりのスマホ利用時間を学力調査の正答率と照らし合わせて集計しています。

結果として、小学校では家庭での復習時間と読書量が、正答率と相関関係にあること、中学校では家庭での復習時間とスマホ利用時間が、正答率と相関関係にあることがわかります。

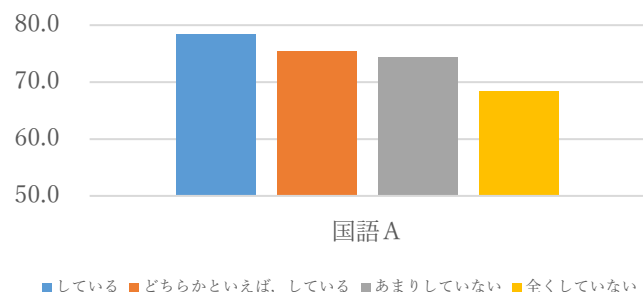
### 小学校①

家で、学校の授業の復習をしていますか

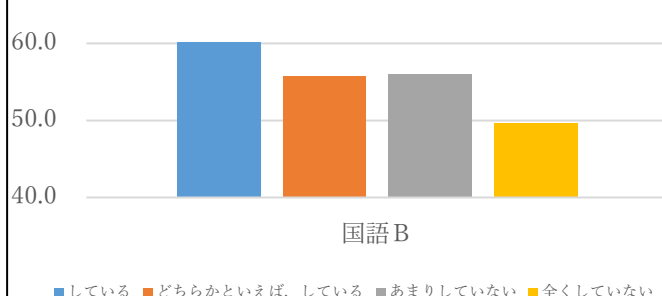


児童質問紙(32)「家で、学校の授業の復習をしていますか」では、「している」と回答した児童が全国平均にくらべて13.6p少なく、「あまりしていない」では6.4p、「全くしない」では6.8p多くなっています。学力調査との相関においては、家庭での復習の時間が少ない児童ほど、正答率が下がっていることがわかります。

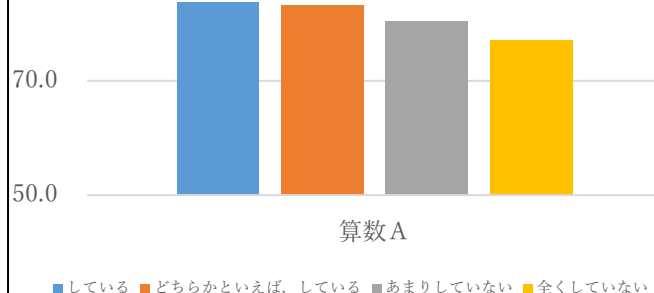
「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関



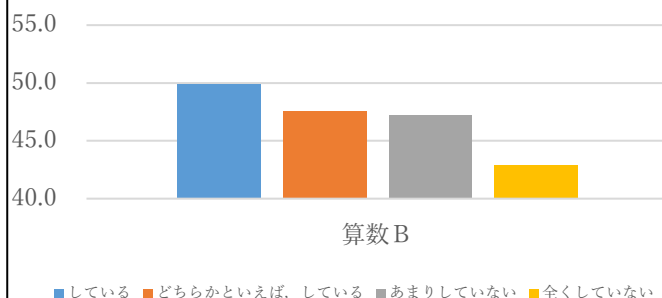
「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関



「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関

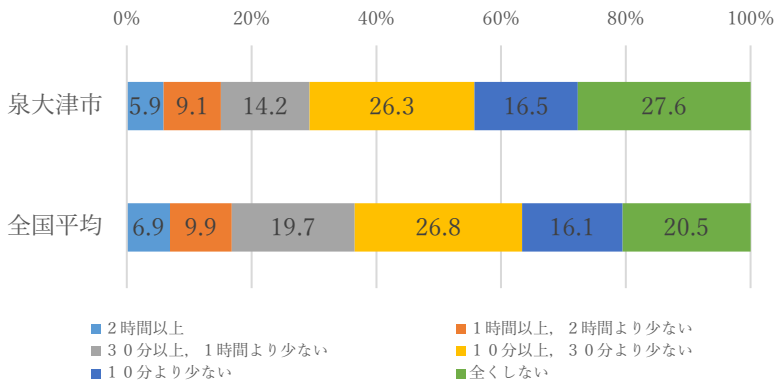


「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関



## 小学校②

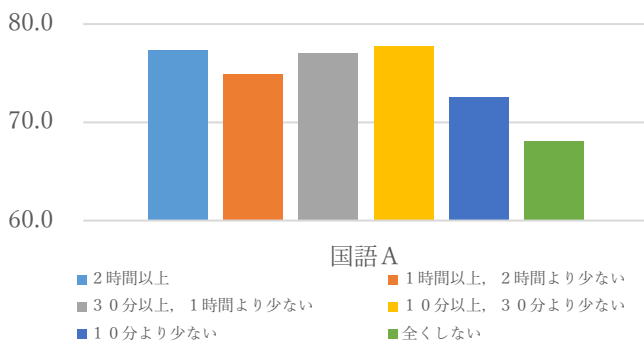
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



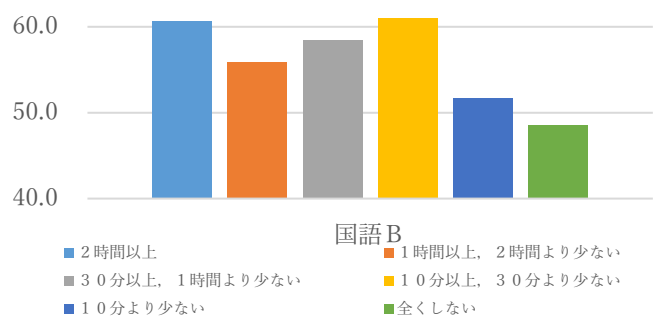
児童質問紙（18）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」では「まったくしない」と回答した児童が全国平均に比べて7.1p多くなっています。

学力調査との関連については、平日1日あたり10分間以上の読書において、正答率が高くなっていることが、特に国語では顕著に表れています。

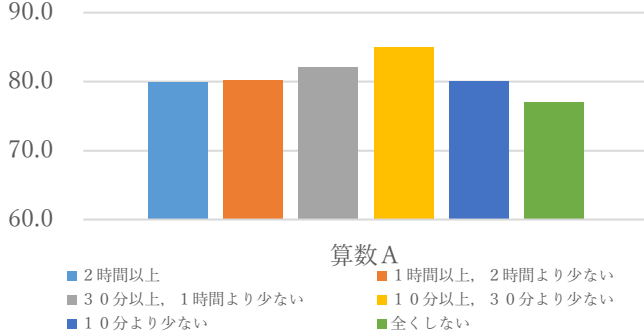
「平日の読書量について」回答状況と学力調査との相関



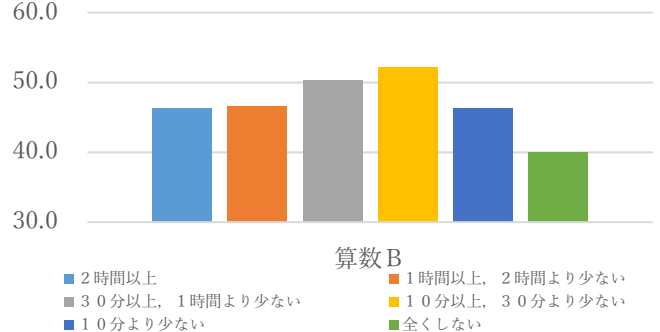
「平日の読書量について」回答状況と学力調査との相関



「平日の読書量について」回答状況と学力調査との相関

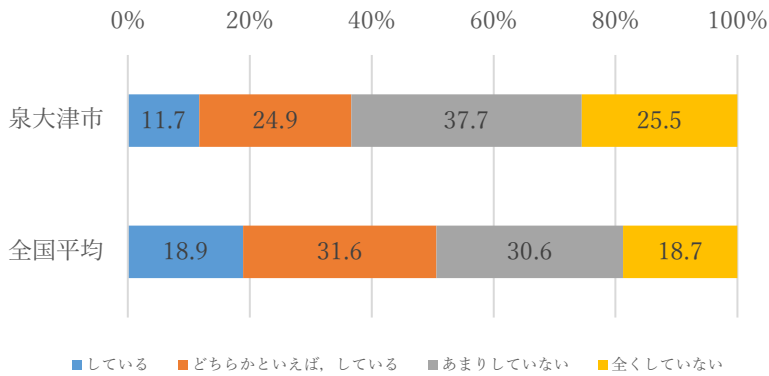


「平日の読書量について」回答状況と学力調査との相関



毎日の読書習慣が、学力につながっているんだね。

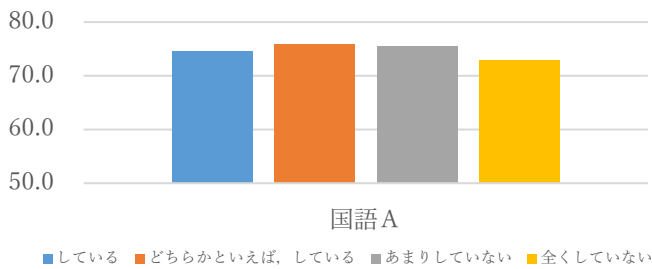
家で、学校の授業の復習をしていますか



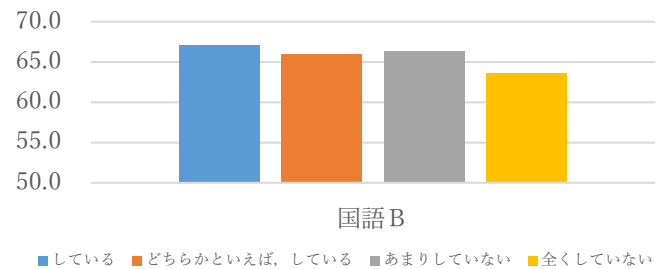
生徒質問紙(34)「家で、学校の授業の復習をしていますか」では、「している」と回答した生徒が、全国平均比べて7.2p少なく、「あまりしていない」が7.1p、「全くしていない」が6.8p多くなっています。

学力調査との相関については、特に数学において家で学校の授業の復習をする生徒ほど正答率が高い傾向にあります。

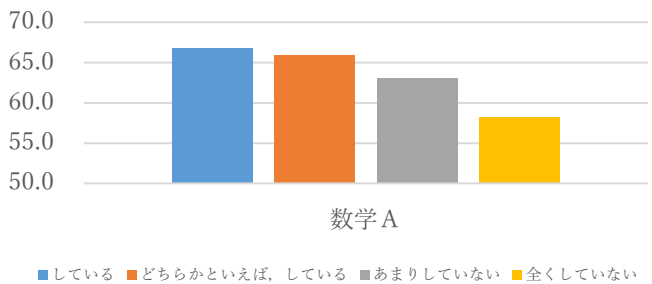
「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関



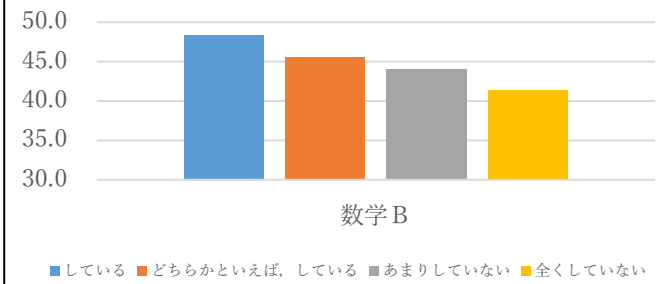
「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関



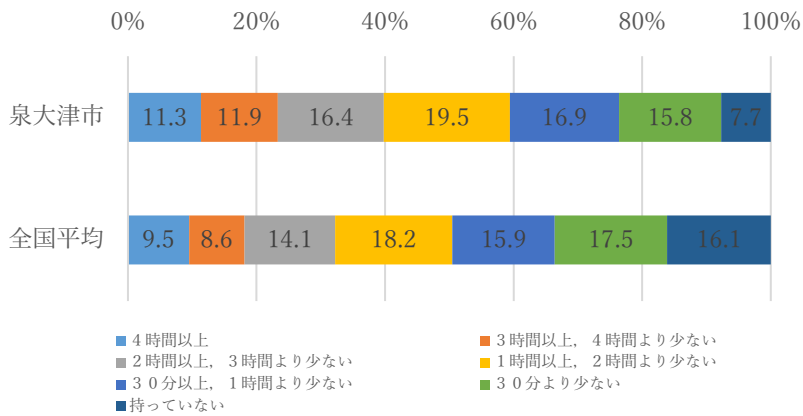
「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関



「家で、学校の授業の復習をしていますか」回答状況と学力調査との相関

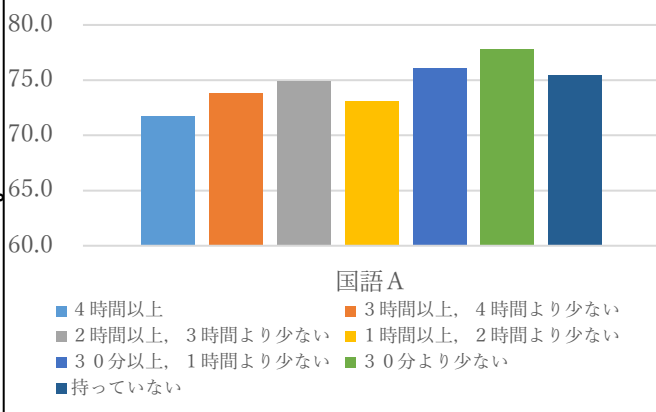


平日のスマホ使用時間について

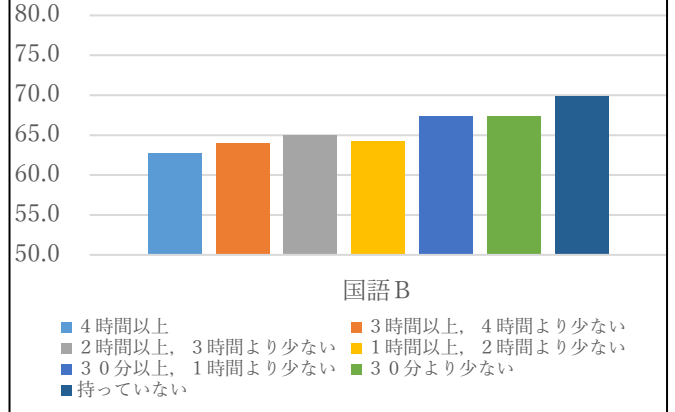


生徒質問紙（14）「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）」では、全国平均に比べて平日の使用時間が長いことが分かります。学力調査との相関については、平日1日あたりのスマホ使用時間が短いほど、正答率が高い傾向にあります。

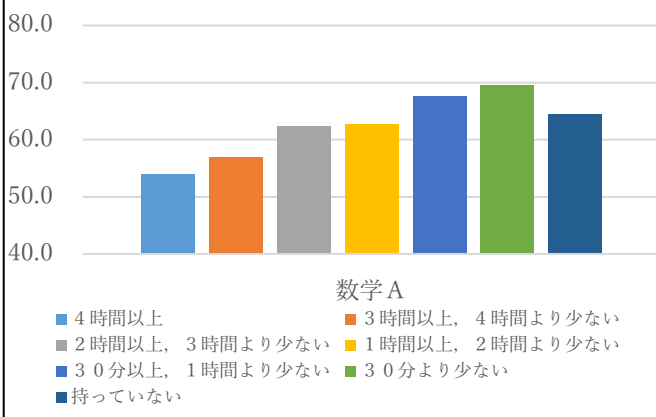
「平日のスマホ使用時間」回答状況と学力調査との相関



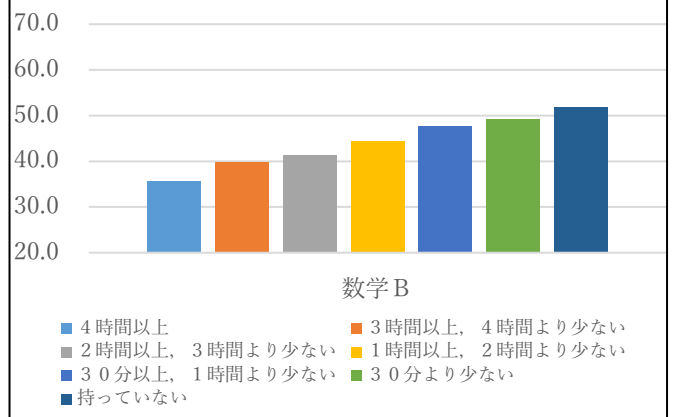
「平日のスマホ使用時間」回答状況と学力調査との相関



「平日のスマホ使用時間」回答状況と学力調査との相関



「平日のスマホ使用時間」回答状況と学力調査との相関



家庭での授業の復習や読書、スマホの利用については、学校と家庭が連携することが不可欠です。今後ともお子様と、家庭での過ごし方やスマホのルールについてしっかりと話し合うなど、家庭でのご協力と併せて学校の授業改善を図りながら、泉大津市の子ども達の学力を向上させていく必要があると考えます。



スマホの使い過ぎは学力にも影響があるんだね。

## 【泉大津市の学力向上の取組み】

泉大津市における児童・生徒の学力向上をめざした取組みを紹介します。

### ・学力到達度テストによる取組み

小学校2年生、小学校4年生及び中学校1年生において、学力到達度テストを実施しています。小学校は当該学年の学習内容の、中学校は小学校での学習内容の定着を確認しています。テスト結果を活用して、児童生徒は個別の学習課題に取組み、教員は授業改善の手立てに役立てています。

### ・英語力向上の取組み

英語力向上及び自学自習力向上を目的に、市内公立中学校に通っている生徒対象に検定料の一部補助を行い、英語検定を積極的に受検する取組みを推進しています。

また、「英検I B A (※1)」を全学年で実施しています。調査結果をもとに生徒は苦手分野の克服に、教員は授業改善に活用しています。(※1) 従来の「英語能力判定テスト」にあたる

### ・国や府による少人数指導加配教員に加え、市費による少人数指導教員を各小学校に1名配置

少人数加配教員は、ティームティーチングで1クラスを複数教員で指導したり、1クラスを2つの少人数クラスに分割して指導したりするものです。子どもの学習の習熟度に分けて指導することもあります。一人の教員が指導する人数を少なくしたり、学力に応じた指導をしたりすることにより、より丁寧できめ細かな指導が可能になり、子どもの理解が進み、学力の向上につながっています。

### ・学校支援アドバイザーによる取組み

本市では、学校支援チームの一員として学校支援アドバイザーを3名配置しています。定期的に学校訪問を行い、各校の学力向上担当者等と連携しながら、学力向上における取組みを支援しています。

### ・学校独自の学力向上プラン

本市の全ての小・中学校において、学力向上担当者を中心に学力向上委員会等で協議を行い、学校独自の学力向上プランを立て、学期ごとにその進捗状況及び成果と課題の検証を行っています。小学校では、学校独自の漢字実態調査や計算力実態調査等の結果を授業改善に生かすことで基礎基本の定着をはかっています。また、中学校では、「生徒による授業評価」の結果を授業改善に生かす取組みも行われています。

### ・教員の授業力向上や指導方法の工夫改善に向けての支援

教員の授業力向上や指導方法の工夫改善等による授業改善は、学力向上に直接結びつくと考えています。さまざまなアンケート、研究授業や研究協議を通して、各校の取組みに対しての成果と課題を学校全体で共有し、日々の授業改善につながる支援を行っています。また、市教委主催の研修をはじめ、さまざまな校外研修の情報提供も積極的に行うなど、学校の活性化・教員の授業力の向上に努めています。

### ・保幼小中高連携の取組み

校種間の連携を重視し、合同研修会や実践交流会の実施、公開授業への参加、推進協議会の開催など連携の強化を図っています。この取組みによって、子どもたちだけでなく教員の交流機会が増え、校種間の円滑な接続と連続性のあるカリキュラムの構築に向けた具体的な動きを進めています。

・学びっ子支援ルームによる取組み

子どもの自学自習力を定着させることをねらいとして、3年生以上6年生までを対象にすべての小学校区で放課後学習会を行っています。支援員は、本市退職校長をリーダーとして退職教員や地域の方で構成されており、子ども一人ひとりに寄り添い、宿題をはじめとして家庭学習の習慣化の支援を行っています。

・地域教育協議会による取組み

本市すべての中学校区に地域教育協議会が設置されており、「〇〇ネット」という名称で活動しています。それぞれの中学校区ごとに、星空観望会やものづくり教室、歩こう会やフェスタなど校区の特色を生かした取組みを多数開催しています。体験や活動を通じて地域の方々と子どもたちがふれあう機会を設け、子どもの生きる力を育む実践を行っています。

泉大津市教育委員会は、本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した上で、各校における取組みの工夫改善を支援し、子どもたちの学力向上をめざします。